

童

2015年3月20日。

オオイヌノフグリが咲き、子どもたちの手にフキノトウが。クロッカスや水仙の芽が、いつもの場所にいつもの時期に現れました。雪が溶け始めると、その早さは日が伸びるのと並行して、加速して、大地の地面がどんどん広がっていきます。春の躍動感を感じる日々となりました。

2月の大雪の時、この調子では3月も雪がたっぷり残り、春は本当に来るのかなあと心配するほどでしたが、毎年必ず決まって春は来るものですね。安心しました。同時に、地面がたくさん顔を出すにつれて、厳しい冬のダメージや爪痕が現れます。一番は樹木の枝折れ。雑木林や植林した小さい枝類がかなりダメージを受け、根元から折れていたり、小さな枝が雪の中に折れ曲がっていたり。次に各種建物の痛み、屋根のトヨや案山子などの小さい木造物の倒壊など。

これらの修理や改善も大きな春の作業。毎年繰り返す春の風物詩となります。それだけに、厳しい冬を乗り越えた安堵感と同じに、多少恨めしさもありますが、夏に向けて新しく作るという創造性もたっぷり味わうことができます。

先日、東京で松岡享子先生の講演を聞いてきましたが、その中で「小人と靴屋」というお話を子どもたちが聞かなくて、子どもたちが喜ぶ場面に変化があるという事がありました。昔でしたら、「朝になると靴ができあがっている」という場面で反応したのに、最近はこちらではなく「小人たちが洋服をもらい、うれしそうに踊って帰っていく」場面を喜ぶそうです。これは、靴を作ったりする創造的な場面（職人たちの姿）が日常から消え、子どもたちの遊びの中に、そんな場面が少なくなってきたからかもしれないとおっしゃっていました。さて、大地の子どもたちはどうでしょう？ 大人たちが、修理修繕から始まり、花壇や畑の手入れ、農作業、大工土木仕事、手仕事等が、子ども達の日常に展開されている大地で育つ子ども達への想いです。



【長野帰還】

京都で3年間過ごした娘が、18日深夜に長野へ戻ってきました。数段精神的に成長し、更に味わい深い人間になってきました。長野での暮らしが楽しみです。

3年前に京都で料理の修行をしてくると京都入城。料理修行が、パン屋の販売になったりして紆余曲折を経て、栄養士栄養教諭の学校へ入学。「授業料だけはお願い、生活費は自分でやるから」と言い、結局、2年間、親は授業料以外、仕送りはしませんでした。学校の勉強以外にも、マクロビの勉強（こちらも授業料は払いましたが）もして、いろいろ学んでいたようです。高校卒業時に「私は本当に勉強したいものが見つかったら大学へ行く、ブランドや偏差値や皆が行くから私も行くという事はしない」と言っていたことを思い出します。

学校へ行きながら、アルバイトで生活費を稼ぎながらも、台湾やタイや沖縄などにも出かけ、料理や食材や現地料理を舌に覚えさせてきたようで、それなりに豊かな暮らしを楽しんできたようです。雨の中、いきなり原付で帰って来たり、燕岳の下山中に、下から登って来て出会ったり、幼稚園の給食や夢のたねでの食事などを作ってくれたり、楽しませてくれました。

そんな娘の無事卒業を祝い、娘の大好きな「せんぜんさん」をお願いして、一緒に京都へ出かけ、娘にめでたい芸能をプレゼントして頂きました。せんぜんさんこと中野さんは、ご存じのように大地OBです。一緒に大地時代を楽しんできただけに、私の子ども達4人の事も可愛がってくれ、特に娘は、中野さんの大ファン（その生き方に）で、プライベートでいろいろ相談したり、生き方を示唆してきてもらったようです。娘が尊敬し相談できる大地OBのひとりです。そんな訳で、娘の卒業祝いは、中野さんの芸にしようと考えていました。

また、妻の母親も90歳の誕生日を迎えたので、そのお祝いということもありました。中野さんの気心を知っているので、舞台は、妻のお寺の仏間。金色の伽藍が備わり、まさに日本の伝統芸が映える場所。その横のふすま続きの茶室兼客間が、中野さんの楽屋兼旅館（！？）となりました。

京都に着いた翌早朝、5時、自転車で2人で、北野天満宮 妙心寺 仁和寺 広沢池 嵯峨野巡り 嵐山 を周り、古都の静寂を楽しみました。ポット・おにぎりやお菓子などを持参し、ママチャリで、変な中年男たちが、朝から走ったり、路上でお茶を飲んだりしている姿は滑稽だったでしょう。予想通り、天龍寺の入り口で自転車でうろうろしていたら、「パーキング？」と英語で問いかけられました。怪しい外国人と間違えられたようです。

舞台本番は、午後3時半。90歳の母や娘が最前列に座り、身内や親せき友人たちが集まり、ふすまが開いて、せんぜんさんが仏前にいつもの笑顔で登場しました。太鼓に始まり、三味線、2人の為のオリジナル三味線、会場全体で三味線伴奏による春よ来い 獅子舞 そして、みんなは2番 と華やかに舞台が繰り広げられました。最後は「めでたいな」の会場との輪唱。卒業と誕生祝いの喜びと同時に、長野のせんぜんさんが、大地OBのせんぜんさんが、この場所にいるというだけで、涙が出るくらい嬉しかったです。いつも言うように、「子どもにとっては、2人の両親のほかに、ひとりでも多くの子どもを見守る親がいたほうがいい」そんな出会い 絆が大地で生まれたらいいと思っています。それには、一緒に何かを作ったり、考えたり、悩んだり、企画実践したりして、子供と共に深めていく大地時代を送ってほしいと願ってきました。文字通り、娘にとっても、せんぜんさんは、そんな親の一人です。

夕食は、姪の旦那さんが日本料理の板前さんなので、市場で仕入れてきた魚料理。ご存じのように、せんぜんさんも板前割烹の腕をお持ちなので、感激していただきました。その後、近くの銭湯を案内して、せんぜんさんの持ちネタと同じような銭湯を楽しんでもらいました。

そして、その日の疲れにお構いなく、翌朝5時半。国の重要文化財にも指定されている本隆寺本堂にての朝の読経（お勤め）にも同伴させていただき、1時間たっぷり法華経（太鼓など）の世界を楽しんで頂きました。太鼓がなり出したら、お経に合わせて踊りそうになったと笑っていました。その後、またまた自転車の乗り、妻と3人で、哲学の道 南禅寺方面を巡り、帰ってきました。こうして、せんぜんさんと共に、京都お祝い旅行は、充実して終了しました。「このめいっぱい、全力で楽しむ事、エネルギーかけて心身共に好奇心もっていくところ、これが大地、青ちゃん何だよね 変わらないね」とせんぜんさんがつぶやいてくれ、感激しました。

「私が帰ったら、家族会議をしてほしい しなければならない」と娘は言っています。祖父母の家に住み、農業をやりながら、食の原点である素材作りから学ぶ、おばあちゃんの知恵を学ぶ 保存食や漬物 発酵食品などを年配の方から学ぶ暮らしをするのが娘のこれからの方向性です。あらゆる食を学び、それを楽しく実践していく、かねてからのスローガンである「食のエンターテイメント」をめざす一歩が始まります。

そして、一週間に一度、幼稚園の給食を作らせてほしいという大きな希望があります。来年からののんのん給食どうぞ お楽しみに！！